



和白干潟の自然観察会ーバードウォッチングー

★ご案内★

★ 和白干潟の生きものやハマボウを見る会 ★

夏の和白干潟にはカニや生きものがいっぱい！海の広場から唐原川河口まで、黄色いハマボウの花や干潟の生き物たちを、浜辺を歩きながら観察しましょう。牧ノ鼻海岸に咲いていたハマボウが、海の広場まで広がってきました。7月には黄色い美しい花がたくさん咲きます。和白干潟は自然海岸が残っており「にほんの里100選」にも選ばれ、環境省の「国指定鳥獣保護区」で「ラムサール条約」の登録候補地です。生きものの宝庫の和白干潟を、皆で守って行きましょう。

●とき：7月19日（土）10:00～11:30 雨天中止、小雨決行

●集合：和白干潟・海の広場（東区和白4丁目海岸）

西鉄貝塚線「唐の原 駅」より徒歩5分

●観察場所：海の広場～唐原川河口

●講師：藤井暁彦 氏（九州環境管理協会）

●定員：先着40名（事前申し込み制）

●参加費：無料 ●持ち物：水筒、軍手、筆記具、タオル

●服装：歩きやすい服装、長そで、長ズボン、帽子、長靴

●主催：和白干潟保全のつどい（和白干潟を守る会ほか）

●申し込み：TEL 090-8412-2663（山之内）



ハマボウの花

4月19日(土) 山・川・海の流域会議主催 春の自然観察会「和白干潟を歩こう」報告 10名参加



初夏のような晴天のもと、春の自然観察会「和白干潟を歩こう」を開催しました。新聞記事を見て一般の方2名も参加されました。海の広場に集合し、開会の挨拶の後「山・川・海の流域会議」の活動の起源が、立花山・唐原川・和白干潟の環境保全であることなど話しました。海の広場では、ハマボウの幼木やシオクグ、ハマサジ、ハマウド、ハママツナなどの植物、砂浜ではコメツキガニの砂団子などを紹介しました。アシ原の入り口には穂を出したハマニンニクやアシハラガニの巣穴があり、アシハラガニがいることが確認できました。アシ原の中を歩いていると、紫色のハマエンドウや黄色のオオジシバリの花が咲いています。アキグミの木には白い小さな花がたくさん咲いていました。唐原川右岸に出てみると、川には小さなボラやクサフグが泳いでいます。泥のところには5センチほどのアシハラガニがいました。川の左岸に移動し、東側に見える立花山を紹介したあと、振り返りを行い散会しました。(山之内)

~~~~~ クリーン作戦 報告 ~~~~~

4月26日(土)「全国春のビーチクリーンアップ2025」 「2025干潟・湿地を守る日」参加のクリーン作戦



干潟を守る日宣言

4月26日は「全国春のビーチクリーンアップ2025」「2025干潟・湿地を守る日」に参加してのクリーン作戦でした。始めに全員で輪になって「全国の干潟・湿地を守る日宣言」と「和白宣言」を読み上げ、全国の干潟、湿地の保全への承認を得ました。熱心に作業していた小学生の男の子や、近隣の大学から多くの学生さんの参加があり、たくさんのごみが集まりました。参加の皆さま、ありがとうございました。参加者37名 回収ごみ79袋でした。(今林)



6月28日(土)「ラブアース・クリーンアップ2025」 参加のクリーン作戦

6月28日は「ラブアースクリーンアップ2025」参加のクリーン作戦でした。蒸し暑かったので、テントと飲み物を少し用意しました。通常と違いラブアース専用のごみ袋を使用するので、ごみ袋の使い分けの説明をしてから、海の広場からアシ原までのごみを集めました。ごみは枯草、打ち上げられた木の葉や草木、プラスチック類のペットボトルやビニール類などでした。福岡工業大学生の清掃活動に関する取材もありました。九州産業大学生や福岡工業大学生含めて参加者23名、回収ごみは22袋でした。(田辺)





★ 観察会報告（2025年5月～6月）★ （山之内 芳晴）

5月18日(日) 第27期 和白干潟の自然観察ガイド講習会 17名参加

「和白干潟の自然と漂着ごみについて」講師：宗像 優 氏(九州産業大学教授)



今年のガイド講習会は、お子さん連れのご家族の参加もあり、盛況でした。最初はきりえ館で「和白干潟の自然と漂着ごみについて」と題して講義があり、海洋ごみは「漂着ごみ」と海底に沈んでいる「海底ごみ」に分けられること、海洋ごみの種類は、人工物、自然物、漁具などに分けられること。和白干潟の主な漂着ごみは、生活関連ごみ（プラスチック類）で、これらのごみは唐原川、和白川、五丁川から海に流れてきて波によって打ち寄せられている。

また、漂着ごみを減らすには、海岸清掃だけでなく、河川の清掃や流域の方々への啓発も必要、とのことでした。フィールドワークでは、唐原川の浜田橋から川に沿って河口へ向かい、河口右岸からアシ原、砂洲を通して海の広場までゴミを拾いながら歩きました。浜田橋下の流れではほとんどごみは見られず、アシ原に行くと空き缶、ペットボトル、弁当容器、お菓子の袋、レジ袋、タバコの吸い殻、大小のプラスチック片など、たくさんの生活ごみがアシの根元に絡まっていました。フィールドワークが終わった後は、きりえ館でまとめをし、意見交換をしました。（今林）

5月23日(金) 香稚保育所 さくら組 年長児36名と先生8名参加

昨日まで3回も雨天順延になり、やっと晴れた本日に変更しての実施でした。海の広場は新緑の木立に囲まれて、ネズミムギの穂が出そろっていました。観察会では、私が始めの挨拶とスタッフの紹介をしてから、鳥の観察をしました。4グループに分かれて、望遠鏡で鳥たちを見ました。ダイサギやアオサギ、カワウやカルガモ、スズガモなどがおり、子どもたちはとても熱心に見ていました。スコップを持って生き物観察に行きました。



アシ原入口付近では、アシハラガニがたくさん見つかり、沖に向かう途中、コメツキガニの放浪集団がいて、子どもたちは夢中でコメツキガニを掘っていました。小さい潮であり潮が引いていなかったけれど、少し海水の流れがあるところでアサリを探しました。アサリも少し採れて、小さなユウシオガイや大きなオキシジミも浄化実験用に拾いました。海の広場に戻り、干潟の紙芝居をして、「干潟や自然を守る人になってください」とお願いしたら、「はい」と元気な答えが返ってきました。（山本）

6月4日(水) 和白小学校 4年生94名と先生5名参加



快晴の好天に恵まれ、日差しは強いながらも北風が心地よく絶好の観察会日となりました。山本代表が始めの挨拶をし、ガイドを紹介した後、バードウォッチングに入りました。渡りのシーズンが終わっていて、干潟に鳥が少ない季節でしたがチュウシャクシギを2羽、望遠鏡で覗くことが出来ました。アシ原に向かいましたが、なぜかこの日は、アシハラガニの姿が思ったほど見られず残念でした。当初の予定通り沖の砂が盛り上がっているところで、コメツキガニの巣穴をスコップで掘りました。子ども達は、たくさんの巣穴を夢中でほり、潮の引いた広々とした干潟を楽しんでいました。次に浄化実験

用のアサリ掘りをしました。予想に反してアサリが多く、大きなアサリやオキシジミを見つけることが出来ました。和白川河口では望遠鏡でハクセンシオマネキを観察した後、集合して輪になって皆で採った生きものの確認をし、アサリやウミナナの海水浄化実験の結果を見てもらいました。アサリやウミナナは海水を綺麗に浄化していました。（松田）



★ 夏の 和白干潟の自然だより ★

(山本 廣子)

ハマナデシコ (ナデシコ科)

海岸に生える多年草です。茎は直立し、高さは20～50cm。厚い葉は光沢があります。花は紅紫色で、茎のてっぺんに固まって咲きます。真夏のアシ原はやぶになっていて、なかなか踏み込めません。アシ原の中道に咲いていて、あまり見ることができませんが、とても美しい花です。海の広場の端でも咲いていることがあります。奈多護岸の道や五丁川河口の道、塩浜のクリークの土手などでも見られます。真夏がよく似合う花です。本州、四国、九州に咲いています。花期は7～9月です。



ハマナデシコ

アシハラガニ (モクズガニ科) 甲幅：2.5cm～3.5cm。



アシハラガニ

甲羅はやや丸みを帯びた四角形です。全体に緑色を帯びていて、オレンジ色の縁取りがあります。本州以南の河口域や沿岸に生息しており、アシ原に巣穴を掘って生活しています。暖かくなると日中にたくさんのアシハラガニが水際を動いています。雑食性で植物や魚の死骸を食べたり、他のカニを食べることもあります。

和白干潟では以前、クロダイの釣り餌のために捕獲されたこともあり数を減らし残念でした。ここ数年は日照りが続き、アシ原に流れている溝がすっかり乾き、アシハラガニは姿を見せなくなっていました。今年は雨が多く、アシハラガニが復活しました。自然観察会では、子どもたちの人気者です。アシハラガニはハサミが硬く、挟まれてけがをすることもあります。甲羅を持つように注意しましょう。

コサギ (サギ科) 全長61cm

和白干潟では留鳥として、1年中見られます。全身が白くてくちばしは長くて黒く、足も黒くて足指が黄色い鳥です。夏羽では後頭から2本の長い冠羽が出て、背に先がカールした飾り羽が出て、とてもきれいです。ねぐらは少し離れた林に他のサギ類に混じってコロニーを作っています。河川や水田などでも見られます。和白干潟ではダイサギ、アオサギ、コサギの3種が普通に見られるサギ類ですが、その中では羽数が少ない鳥です。白い羽が海水の青にもアシの緑にも良く映えて、美しいです。他のサギよりも動きが活発で、水中で足を震わせて、魚をくちばしで取って食べます。和白干潟では、近年サギ類全体が減少しているように感じます。以前は夏期には300羽以上もダイサギやアオサギが並んでいましたが、現在は20羽程度です。環境が変化したのでしょうか？



コサギ

★ 3月 30日 環境省より感謝状が届きました

環境省とバードリサーチより和臼干潟を守る会に「モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査」の貢献への感謝状が届きました。和臼干潟を守る会は長期に渡って博多湾のシギ・チドリ類調査を続けてきました。博多湾や和臼干潟の鳥の変化を全国規模で知ることができます。皆さんも調査に参加されませんか？(山本)



★ 3月 30日 タイラギ発見

タイラギは、ハボウキガイ科 クロタイラギ属で内湾の砂泥底に生息している大型の2枚貝で、重要な食用種です。3月30日に雁ノ巣と五丁川河口で久しぶりに発見しました。50年前の和臼干潟にも生息していましたよ。(谷口)

ラムサール条約登録湿地を訪ねて⑧ (松田 元)

ラムサール条約に登録された干潟や湿地はどのような変化があったか聞いてみました。シリーズです。

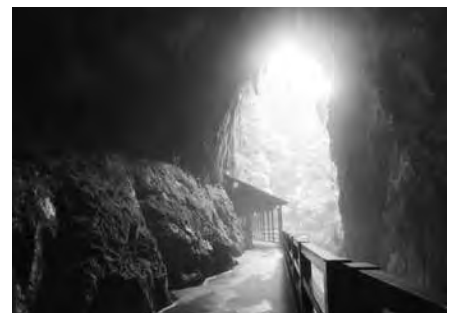
あきよしたいちがすいけい

《カルスト台地、秋吉台地下水系》

ラムサール条約で定義する「湿地」の中には、湿地、河川、湖沼、地下水系、マングローブ、藻場、干潟、サンゴ礁などが含まれています。2005年11月、日本で15番目のラムサール条約登録地に指定された秋吉台地下水系は、日本最大級のカルスト台地として、1995年に国立公園にも指定されています。

秋吉台の歴史は、およそ3億5千万年前に南方の海でサンゴ礁として誕生し、それから長い年月を経て現在のようなカルスト台地を形成したそうです。秋吉台の地下には、日本屈指の鍾乳洞が広がっています。石灰岩台地に降った雨が割れ目や隙間から岩を溶かして流れ込み、地下で岩を溶かして流れていくにつれ空洞化して、そして空洞はどんどん大きくなり鍾乳洞が出来ているそうです。

秋芳洞、大正洞、景清洞の3つの大きな洞窟から成り、私たちは今回、秋芳洞を見学することが出来ました。洞窟内にはアキヨシシロアヤトビムシ、アキヨシホラズミカニムシ等の洞窟性動物がたくさん生息しているそうです。最近では、アカツキメクラヨコエビと名付けられた新種も見つかっており、暗い洞窟内に生息する為に透明でヨコエビに似た姿をした珍しい生き物が発見されました。洞窟と言えばコウモリですが、今は洞窟内の明かりで減少しているそうです。我々もコウモリが洞窟内を飛んでいる姿を観ることが出来ましたが、これからの季節は、子育ての為にコウモリに出会うことが多いそうです。日本有数の大自然に囲まれた秋吉台は四季を問わず素晴らしい所だと感じました。鍾乳洞は、夏涼しく冬暖かい快適な場所です。訪問した6月9日はあいにくの雨でしたが、ゆっくり見学できました。



秋吉台

●気が付いたらあなたも電話してください！

▼海辺のゴミやアオサなどをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局・維持課)

▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7154 (港湾空港局・みなと環境政策課)

●傷ついた野鳥を見つけた時 092-513-5611 (福岡県筑紫保健福祉環境事務所・地域環境課)
092-643-3367 (福岡県環境部・自然環境課・野生生物係)

** お 願 い **

- 干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう！とても危険です。
- 干潟や堤防で火気を使うことはやめましょう！(花火、バーベキュー、ゴミを燃やすこと)火災の危険があります。
- 愛犬のフンは飼い主が持ち帰りましょう！





活動日誌

(山之内 芳晴)

●2025年 3月

- 3/8 (土) 「山・川・海の流域会議」総会参加
- 3/9 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 3/11 (火) イオンイエローレシートキャンペーン
- 3/13 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 3/18 (火) 「雛祭りハマグリ店頭調査2025」参加
- 3/22 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 3/29 (土) 日本野鳥の会福岡支部総会 参加
- 3/31 (月) 和白干潟通信153号編集会議

●2025年 4月

- 4/3 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 4/6 (日) 2025年度春期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 4/8 (火) 和白干潟通信153号発送会
- 4/11 (金) イオンイエローレシートキャンペーン
- 4/13 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 4/15 (火) 2025年度春期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 4/19 (土) 春の自然観察会「和白干潟を歩こう」(山川海の流域会議)
- 4/22 (火) イオンイエローレシートキャンペーン贈呈式
- 4/26 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 4/28 (月) 2025年度春期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)

和白干潟(博多湾東部) ラムサール条約登録の 国際的な登録基準

和白干潟を守る会では、1991年から博多湾東部と今津の鳥類調査を続けてきました。2005年頃までは和白干潟(博多湾東部)のラムサール条約登録の国際的な基準は1,2,6を満たしていました。しかし和白干潟沖の人工島開発により、和白干潟近海の渡り鳥の飛来が減ってしまい、和白干潟は国際基準6(水鳥の個体数の1%以上を定期的に支えている湿地)を満たさなくなっていました。今回報告された「モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査2004-2022報告書(環境省)」によると、和白干潟の絶滅危惧種の確認回数はクロツラヘラサギ、メダイチドリなど5種で41回になり、国際基準2(絶滅のおそれのある種や群衆を支えている湿地)に該当します。基準1(希少なタイプの湿地)にも該当します。福岡市はこの貴重な和白干潟をラムサール条約に登録申請し、将来も守っていくように願ってやみません。(山本)

●2025年 5月

- 5/1(木)～ くすだひろこきりえ展「和白干潟のなかまたち」開催
- 5/1 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 5/2 (金) 2025年度春期シギ/チドリ調査2回目(今津)
- 5/10 (土) 「山・川・海の流域会議」参加
- 5/11 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
イオンイエローレシートキャンペーン
- 5/13 (火) 2025年度春期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 5/17 (土) 2025年度春期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 5/18 (日) 第27期和白干潟の自然観察ガイド講習会
- 5/23 (金) 香椎保育所さくら組の和白干潟観察会
- 5/24 (土) 定例会議
- 5/25 (日) 和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 5/27 (火) 干潟通信154号 編集会議



干潟のつぎやき「浜辺の枯葉」

和白干潟の海の広場に行くと、浜辺にたくさんの枯葉が打ち寄せています。和白川や五丁川には枯葉は見かけないので、おそらく唐原川から流れて来たものだと思います。この枯葉は、毎月のクリーン作戦の時に取り除かれていますが、翌日にはまた新たな枯葉が打ち寄せます。プラスチックごみではなく、自然ごみなのでそのままにしておいて良いように思われますが、そのままにしておくと富栄養化で干潟を汚染することになりますので、取り除かなければなりません。漂着する枯葉を見てみると、クスノキ、タイサンボク、アオキ、マサキなどに似ているようで、唐原川の土手には木はあまり見かけないので、上流の立花山の木々の落ち葉が流れ着いているようです。立花山から和白干潟まで山・川・海と自然は繋がっているんですね。



浜辺の枯葉

活 動 報 告

★4/22 イオン幸世の黄色いレシートキャンペーン贈呈式に参加

イオン香椎浜店では毎月11日に「イオンデー」として、黄色いレシートが発行されます。そのレシートを自分が応援したいボランティア団体の「投函ボックス」に入れるとその団体にレシートの金額の1%相当が寄贈されます。4月22日にその贈呈式が開催され参加しました。今回は1分間のアピールタイムがあり、干潟通信を配って「和白干潟を守る会」のお話をする事ができました。「和白干潟を守る会」の投函ボックスにレシートを入れていただいた皆さまとイオン香椎浜店さまに感謝いたします。黄色いレシートは全国どこで発行されたものでも構いません「和白干潟を守る会」に送ってくださるとありがたいです。今回は石川さんと2名で参加しました。(山本)



★第21回 くすだひろこきりえ展「和白干潟のなかまたち」を開催



きりえ展は5/1～5/31の間、福岡市東区のレストラン「花もも」で開催されました。新作12点を飾り、絵ハガキや絵本の販売、和白干潟のリーフレット類も配布しました。和白干潟を守る会や野鳥の会、福岡きりえ同好会、中学校や高校の同級生、太極拳、フラダンス、山の友達、以前教えていた造形絵画教室の家族の方など、多数見に来店いただき、ありがとうございました。和白干潟をテーマのきりえ展開催で、和白干潟の自然の大切さが広まっていくことを、心より願っています。今回は東京からの絵本の読者の方の参加もありました。(山本)

★和白干潟のこと★

(海野 達巳)

私は今年1月に和白干潟を守る会に入らせていただきました、海野と申します。昨年12月に70余年間暮らした東京を離れ、妻と共に福岡市へ移住してきました。生まれ育った都会の暮らしが当たり前で、特に何不自由なく過ごしてきたつもりでしたが、和白干潟そばに暮らし始めてから、自分が今まで知りえなかった大切なことに気づかされました。都市としてのインフラと利便性が整い、日々の生活に不自由のない福岡市。しかしそのすぐそばに、自然の美しい海岸線と、命あふれる干潟が広がっていることに驚きました。

潮の満ち引きとともに姿を変える干潟には、多くの生き物たちが息づいています。干潟の海水や砂泥の中には小さな魚やカニや貝類が住み、それらを目当てに渡り鳥たちが羽を休めにやってきます。春の休日には潮干狩りの家族連れの方々が大勢やってきます。朝日や夕日によってその色彩を変える潮と砂浜、鳥たちの飛び姿を見ながら愛犬と散歩する日々は、これまで経験したことのない豊かさを感じます。自然とは、ただ眺めるものではなく共に生きるものだ、和白干潟は教えてくれます。1978年発表の「博多湾東部海域全面埋め立て計画」に対し、山本代表をはじめ会員の方々、地元の方々の長年の努力によって、この素晴らしい干潟が全面的に埋め立てされることなく守られてきたことを知り、「和白干潟を守る会」の方々に心からの敬意と感謝の念を抱いています。そのことから、自分も本当にわすかであってもそのお手伝いをしたいと思いました。和白干潟は都市と自然が共存できることを教えてくれる、かけがえのない宝物です。この出会いに感謝し、これからの暮らしの中で、干潟のことをより深く知り、周りの方々に伝え、大切に守っていききたいと思っています。



香住ヶ丘から見た和白干潟

守る会問い合わせ窓口

★ホームページ：<https://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

- ◎入会／観察会（申込等） 山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663
- ◎クリーン作戦 田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460
- ◎広報／調査／定例会議 山本 廣子 Tel. 092-606-0012
- ◎干潟まつり 松尾 満子 Tel. 090-9651-8489



★お知らせコーナー★

(松藤 真理奈)

★国際 ビーチクリーンアップ参加 ゴミデータ調査★

世界一斉の環境保護キャンペーン。海岸のごみを調べます。クリーン作戦時に実施。ぜひご参加ください！

- 日時：9月27日(土) 15時～17時
- 集合：和白干潟・海の広場(東区和白4丁目海岸)
- 主催：和白干潟を守る会
- 問い合わせ：090-1346-0460(田辺)



和白干潟のエコチャレンジ “アオサのお掃除大作戦”

- 日時：9/20(土) 14時～16時
- 集合：和白干潟・海の広場
- 主催：和白干潟保全のつどい(守る会ほか)
- 問い合わせ：090-8412-2663(山之内)

唐の原川お掃除し隊

- 日時：10/4(土) 10時～12時
- 主催：山・川・海の流域会議(守る会ほか)
- 問い合わせ：090-2397-1424(松田)

★定例スケジュール★

● 定例会議(7/26、8/23、9/27)

毎月第4土曜日12時～14時 守る会事務所にて開催。
★和白干潟を守る会事務所…福岡市東区和白1-14-37

以下は参加自由です。仲間が待っています！

● クリーン作戦と自然観察(7/26、8/23、9/27)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合
※長靴があると便利駐車場なし

● 和白海岸探鳥会(7/13、8/10、9/14)

毎月第2日曜日 9時～12時 JR和白駅前の和白公園集合
参加費：野鳥の会会員100円、一般300円、中学生以下無料
主 催：日本野鳥の会福岡支部

★会員募集中

年会費：個人 2,000円
団体 5,000円

★カンパのお願い

郵便振替01720-4-23860
和白干潟を守る会

★ボランティアへのお誘い★

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転、記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。

参加をお待ちしています！

和白干潟の鳥たち(その110)

イソシギ(チドリ目シギ科 Common Sandpiper) 磯鶺 [全長20cm]



写真撮影：三宅 僚

和白干潟では留鳥として、1年中見られます。河口や干潟沿岸に生息していて、繁殖期にはつがいで行動し、非繁殖期には1羽でいるのが普通です。頭や背は褐色で、体下面は白く、白色は胸側部分に入りこんでいて、他のシギ類と区別できます。目は黒くて白いアイリングがあり、可愛いです。足は緑黄色です。雌雄同色で、成鳥夏羽と冬羽には余り違いはありません。浅い水辺を尾を上下に振りながら歩き、水生昆虫やゴカイなどを食べるそうです。和白干潟では、和白川河口や唐原川河口、アシ原付近の沿岸でよく見られます。しかし1羽や2羽くらいしか見られず、総数は少ないようです。「ピーイ」「チーリーリー」と細い声で泣いて飛ぶ姿が観察できます。(山本 廣子)

【編集】松藤真理奈・山本廣子・山之内芳晴・松田元・今林真由美



《カット》くすだ ひろこ

★次号は2025年10月に発行予定★

【編集後記】立花山の頂上から双眼鏡で和白干潟を見ると、白いサギが数羽見えました。いつも、陸から見るスズガモの群は一直線に並んで見えます。冬に立花山の頂上から見ると、どんなふうに見えるか見てみたいと思いました。(今林)

